

世界が注目する、現代の忍者

テレビの人気番組「Y.O.Uは何しに日本へ？」に出演するなど、近年、ひとときわ注目を浴びている「日本より海外で有名な日本人」である初見良昭さん。初見さんは、伊賀・甲賀と並ぶ日本三大忍術の一つとされる戸隠流忍術の34代目継承者です。ほかにも8流派の宗家でもあり、忍術を核に無数の古武術を統合し作り上げた「武神館武道」は、現在、世界55か国に道場が展開され、その門下生は30万人とも言われています。今回は、世界を魅了する初見さんから、忍術の魅力を紹介していただきます。

忍術との出会い

戸隠流忍術は、現存する忍術の

流派の一つであり、身を守り、家族を守り、主君を守るための武術です。敵に相対した場合でも自ら

攻撃を仕掛けず、あらゆる手段を尽くして攻撃をかわし、生き延びることを目的にします。

古武道としてその技が脈々と現在まで伝承され、現在、野田市の初見良昭さんが第34代目宗家となっています。

初見さんは少年時代から柔道や空手をはじめ、数流派の古武道からボクシングなどの格闘技まで幅広く修行していました。奈良県橿原に住んでいた高松寿嗣翁と運命の出会いがその後の人生を決定づけます。初見さん27歳のことでした。出会った瞬間の印象を「今まで

にない怖い感覚」と振り返る初見さんは「高松先生は中国で10年実戦を経験し不敗を誇った方だから、命の感覚をお持ちでした。それが高松先生を本物の武道家だと感じさせたんだね」と語ります。

高松翁との稽古が、今の初見さんの指導にもつながります。

「道場に来る世界の軍人や警察官など、第一線の人たちはすでにほかの武術をやり抜いた達人ばかりです。それでも私のところに来るのは、そんな彼らにもわからないことがあるからです。生きるか死ぬかの戦いの瀬戸際では理屈じゃないのね。生きるために必要な感覚だよ」と初見さん。

高松翁の写真は今も武神館道場の中央に飾られ、師を敬う気持ちが伺えます。

初見さんは、高松翁の下で15年修行して戸隠流忍術34代目宗家を継承しました。ほかにも宗家を継承した古武術など8流派と合わせて、初見忍術として統合した「武神館武道」を野田の地で創設しました。

